

渡良瀬遊水地における冬期のタカ類の個体数カウント

遠藤孝一¹

はじめに

栃木県, 群馬県, 埼玉県, 茨城県の4県にまたがる渡良瀬遊水地は, 広大なヨシ原を有しており, チュウヒ *Circus spilonotus* をはじめとする多くのタカ類の越冬地として知られている. しかし近年, 大規模な貯水池 (谷中湖) やゴルフ場の完成によって生息地であるヨシ原の面積は減少しつつあり, その上新たな貯水池の計画もあることから, 生息環境の保全が課題となってきた.

こうした状況のもと, 渡良瀬遊水池を守る利根川流域住民協議会と日本野鳥の会栃木県支部では, 保護に関する基礎資料収集を目的として, チュウヒ類を中心に冬期のタカ類の個体数カウントを年1回行なってきた. ここでは, 1993年から1997年までの5年間の調査結果を報告する.

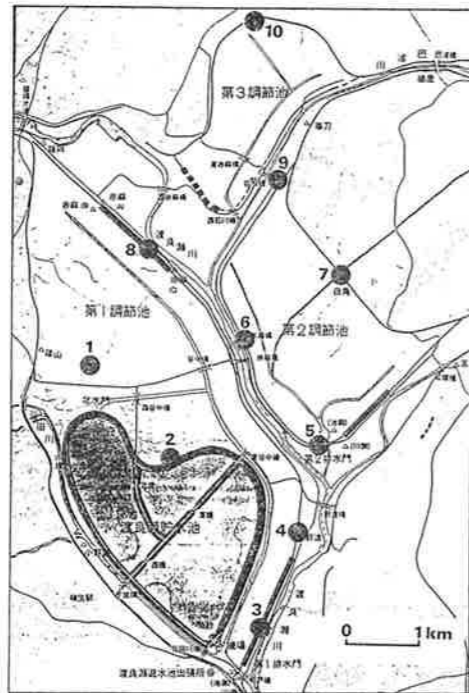


図1. 調査地と観察地点 (●)

Fig. 1. Map of study areas in Watarase Yusuichi.

●: Observation sites

1. 〒320 宇都宮市上戸祭町 2910-13

1997年3月30日受理

表1. ワシタカ類の観察個体数

Table 1. Species and number of raptors counted in Watarase Yusuichi.

No	種名	species	調査年 year					平均 mean
			1993	1994	1995	1996	1997	
1	チュウヒ	<i>C. spilonotus</i>	28	32	16	26	34	27.2
2	ハイロチュウヒ	<i>C. cyaneus</i>	0	3	3	1	3	2
3	トビ	<i>M. migrans</i>	○	○	○	○	○	-
4	オオタカ	<i>A. gentilis</i>	1	4	2	2	4	2.6
5	ハイタカ	<i>A. nisus</i>	0	0	0	1	1	0.4
6	ノスリ	<i>B. buteo</i>	14	18	13	18	29	18.4
7	ハヤブサ	<i>F. peregrinus</i>	1	0	3	0	2	1.2
8	コチョウゲンボウ	<i>F. columbarius</i>	2	1	1	0	1	1
9	チョウゲンボウ	<i>F. tinnunculus</i>	1	3	2	1	3	2
種数合計			7	7	8	7	9	7.6
個体数合計			47	61	40	49	77	54.8

調査地および調査方法

調査は, 栃木県藤岡町, 小山市, 野木町, 埼玉県北川辺町, 群馬県板倉町, 茨城県古河市に広がる渡良瀬遊水地で行なった (図1). この地域は, 面積3300haのヨシ *Phragmites communis* を主体とする標高15m前後の平坦な草原である.

観察は毎年1回, 冬期に行なった (付表). 1回あたり, 9~10地点に各地点2~5人の観察者を配置し, 3~4時間同時観察を行なった. チュウヒ, ハイロチュウヒ *Circus cyaneus* については, 観察時間, 行動, 飛行トレースを1/25000の地図および記録用紙に記録した. また, 体色パターンもできるだけ記録し, 個体識別に努めた. その他のタカ類については, トビ *Milvus migrans* を除いて, 観察時間, 行動, 大まかな観察場所を記録した. トビは, 生息を確認したかどうかを記録するだけで, 個体数などは記録しなかった.

結果および考察

5年間で, チュウヒ, ハイロチュウヒ, トビ, オオタカ *Accipiter gentilis*, ハイタカ *Accipiter nisus*, ノスリ *Buteo buteo*, ハヤブサ *Falco peregrinus*, コチョウゲンボウ *Falco columbarius*, チョウゲンボウ *Falco tinnunculus* の合計9種 (7~9種) を記録した (表1). トビを除く観察個体数は40羽~77羽で, 平均54.8羽であった.

観察個体数が最も多かったのは, チュウヒで16羽~34羽 (平均27.2羽), 次に多いのはノスリで, 13羽~29羽 (平均18.4羽) であった. 他のタカ類は, オオタカ, ハイロチュウヒ, チョウゲンボウは平均2.0~2.6羽, ハヤブサ, コチョウゲンボウ, ハイタカは平均

0.4~1.2羽と少なかった。

チュウヒとノスリの個体数が多いのは、渡良瀬遊水地の環境が平坦な草原であることによっている。そのため、ハイイロチュウヒやコチョウゲンボウ、チョウゲンボウなど農耕地や草原性の種も記録されている。また、森林性のオオタカも最高4羽が記録された。

ところで、栃木県産鳥類目録（栃木県産鳥類目録編集委員会 1981）によれば、冬期県内に生息するタカ類は15種である。これらの中にはイヌワシ、クマタカなど山地性の種やオジロワシのように特定の地域で越冬している種、チゴハヤブサやケアシノスリのように稀な種が含まれている。したがって渡良瀬遊水地では、栃木県の平地や丘陵帯に生息するタカ類のほとんどが生息しているといえる。日本のほかの地域におけるタカ類の越冬個体数は明らかでないが、1地域で1日7~9種、トビを除いて平均50羽以上の個体が観察される地域はあまりないと考えられる。当地域は日本でも有数のタカ類の越冬地と考えて差し支えないであろう。特にチュウヒは、平均27.2羽が記録されており、渡良瀬遊水地は本種の重要な越冬地となっていると考えられる。

なお、個体数の推定方法については、個体識別が充分とはいえないため、生息実数と若干の開きがある可能性は否定できない。たとえばチュウヒについていえば、1995年1月16日の日中のカウントでは16羽を記録したが、同日の夕方に行なったねぐら調査では26羽が記録された（遠藤ほか 1995）。また、1997年2月2日の調査では34羽を記録したが、2日後の2月4日のねぐらでの調査では遊水地全域で26羽を記録している（平野ほか 準備中）。平野（私信）によれば、ねぐらに集まるチュウヒの中には、渡良瀬遊水地の外で採食している個体も含まれ、また夕方遊水地から飛び去る個体はまったく観察されていないという。したがって日中の個体数の方がねぐらに集まる個体数より少ないと考えられ、1997年2月2日のように日中の個体数の方がねぐらに集まる個体数より多い場合には重複して記録している可能性が高かった。

ただしこのようなデータであっても、同じ方法で長年調査することによって、およその個体数や生息状況の変化は把握できると考えられる。また、一般参加者も含んだ多くの観察者による一斉調査は、普及啓蒙的な役割も大きい。したがって、調査方法の改善など調査精度を高める努力をしながら、今後も本調査を継続して実施する価値は高いと考えられる。

謝 辞

調査にあたっては、渡良瀬遊水池を守る利根川流域住民協議会と日本野鳥の会栃木県支部の多くの会員にご協力いただいた。また、平野敏明氏と黒沢隆氏には、本報告のまとめ方について、適切な助言をいただいた。以上の方々にお礼申し上げます。

引用文献

- 遠藤孝一・平野敏明・君島昌夫・小堀政一郎. 1995. 渡良瀬遊水地におけるチュウヒの冬時の観察について. 1995年度日本鳥学会講演要旨集: 40.
- 栃木県産鳥類目録編集委員会. 1981. 栃木県産鳥類目録. 日本野鳥の会栃木県支部, 宇都宮.

Annual counts of wintering raptors in Watarase-yusuichi, 1993-1997

Koichi Endo¹

Annual counts of wintering raptors were carried out in Watarase-yusuichi between 1993 and 1997. A total of nine raptor species were recorded during the period. Except for Black Kites *Milvus migrans* the number of which was not counted, Eastern Marsh Harriers *Circus spilonotus* were the most numerous (mean=27.2 individuals), followed by Common Buzzards *Buteo buteo* (mean=18.4). The other species were observed in small numbers; Northern Goshawks *Accipiter gentilis* (mean=2.6), Hen Harriers *Circus cyaneus* (mean=2.0), Common Kestrels *Falco tinnunculus* (mean=2.0), Peregrine Falcons *Falco peregrinus* (mean=1.2), Merlin *Falco columbarius* (mean=1.0) and Eurasian Sparrowhawks *Accipiter nisus* (mean=0.4).

1. 2910-10 Kamitomatsuri, Utsunomiya-shi, Tochigi, 320

付表 調査期日と調査時間

調査期日	調査時間 (時間)	調査定点 (箇所数)
1993年2月7日	13:30~16:30 (3)	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10 (10)
1994年2月6日	10:00~14:00 (4)	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10 (10)
1995年1月16日	9:30~12:30 (3)	1, 2, 3, 5, 6, 7, 8, 9, 10 (9)
1996年2月12日	9:30~12:30 (3)	1, 2, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10 (9)
1997年2月2日	10:00~13:30(3.5)	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10 (10)

調査定点番号は、図1の番号と一致する。